

HQR023-14

会場:303

時間:5月25日 09:45-10:00

## 信濃川流域における上部旧石器時代の黒曜石の利用 Upper Palaeolithic obsidian exploitation along the Shinano river in central north Japan

小野 昭<sup>1\*</sup>  
Akira Ono<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 明治大学黒曜石研究センター

<sup>1</sup> Meiji University

本報告は、黒曜石を中心に珪質頁岩を含む石器石材の獲得と運搬に関するモデルに焦点を当てる。対象は信濃川中流域左岸の段丘上に所在する上部旧石器時代の真人原遺跡を事例に議論する。遺跡の直接的な数値年代は得られていないが、周辺のテフラとの関係から較正年代でおよそ 18ka と考えられる。石器群の組み合わせは比較的単純で多様な尖頭器を中心とする。今までに 8200 点の石器資料が発掘された。支配的な石器素材は珪質頁岩で総石材重量の 80% を占める。小規模な石器の集中区は後期更新世における小規模狩猟集団の信濃川に沿った移動を想起させる。真人原遺跡 C 地点の黒曜石の産地分析の結果は長野県和田峠、霧ヶ峰であった。一方同遺跡 A 地点の黒曜石は秋田県男鹿、青森県深浦であり、長野県蓼科は 1 点のみであった。こうした広域にわたる多様な産地からの石器素材の獲得は、当時の獲得システムの複雑さを物語っている。本報告では産地への直接的採取の遠近にかかわらず、飛び石状の線形のモデルを検討する。

キーワード: 上部旧石器時代, 信濃川流域, 黒曜石, 産地推定, 真人原遺跡, 尖頭器石器群

Keywords: Uper Paleolithic, Shinano river system, Obsidian, Geologic source identification, Matobara site, Point tool industry